

エゼキエルの時 / Amir Tsarfati 師

(2018年7月18日 大阪国際交流センターにて講演/2018年8月22日公開)

無断転載禁止

.....

こんにちは。今日、ここに来られたことを、とても嬉しく思います。大阪は初めてですが、とても温かく歓迎されています。とても美しい街だと思います。美味しい食べ物がいっぱい、美味しいコーヒーがたくさんあって。私に必要なのは、それだけです(笑)。そして、一番大事なものは、素晴らしい交わりです。

私たちは今、まさにノアの時代に生きていると思っています。人々は嫁いだり、めとったり、買ったり売ったりして、ただ、日々の生活を送っています。そして、ごく少数の人たちだけが、砂の中から顔を上げて、神がこの終わりの時代にこの世界の中で、神がされていることを見えています。残念ながら、私は未信者の人たちには、多くのことを期待していません。神の御言葉を知らなければ、神がされていることに対して、ワクワクすることは出来ませんから。

ただ、神の御言葉を知っていると一言いながら、

そして、神の御言葉を聞く場所に行っていないながら、

神の御言葉である本を持っていないながら、

それが起こっているなら、これは大惨事です。

これが、まさに、こんにちはの教会の状態です。彼らは見て、知っていないながら、それを信じていません。

イエスが、エマオに向かっている二人の弟子たちの前に姿を現された時、イエスについて知らない人や、イエスの話を聞いたこともない人の前に現れたものではありません。

イエスが姿を現されたのは、二人の弟子たちの前でした。彼らは、イエスとずっとともに過ごし、イエスをずっと見ていましたし、イエスのことばをずっと聞いていました。彼らは、イエスと交流がありました。イエスの足元に座って、イエスの教えに耳を傾けていたのです。ピリポ・カイザリヤで、ペテロが



Figure 1 ロベルト・ズンド画「エマオの途上」

16 …「あなたは、生ける神の御子キリストです。」

(マタイ 16:16)

と宣言した直後に——聖書によれば、その直後からイエスは、

「人の子は、エルサレムに行って、ローマの手に渡されなければならない」

と教え始められました(書記注: マタイ 16:21、マルコ 8:31、ルカ 9:22 参照)。

そして、苦しまなければならず、死ななければならず、3日目によみがえらなければならない、と言われました。しかし、イエスは、それを言う必要はありませんでした。なぜなら、イザヤ書 53 章にすでに書かれていたからです。しかしイエスは、彼らがようやくイエスがメシアである、ということ認識した瞬間に、「メシアの役割とは何なのか」ということを説明されました。しかし、彼らは決してそれを信じませんでした。彼らは、イエスの言葉を聞きました。しかし彼らは、怒りを覚えたのです。

「そんなことを言うてはいけません！」

「あなたが死ぬわけがありません！」

そんなふうにも、ペテロが言いました（マタイ 16:22 参照）。

するとイエスは、

「下がれ。サタン！」

と言われました（マタイ 16:23 参照）。

サタンは今、教会を混乱させようと必死です。未信者の人々を盲目にさせるのも、その一つです。しかし、もう一つは、神の御言葉を知っているはずの教会を混乱させることです。イエスが、彼の死とよみがえりについて、弟子たちに伝えようとした理由の1つは、これが神のご性質だからです。神は、その子どもたちに、神のご計画を知っておいてほしいと願っておられるのです。

世界中に、たくさんの秘密結社が存在します。その名前を聞いただけでは、彼らが何を信じているのか、普通の人には分かりません。彼らは、その計画を秘密にすることで、プライドを得ています。彼らが言うには、ごくわずかな人だけが、より啓発されていて、人よりも優れ、それらを理解出来る知恵を持っていると告げています。そして彼らは、

「自分たちは、他の人よりも啓発されているため、世の中を操り人形のように操る権利がある」

と言っています。そして、こういった人たちは、神の御言葉を全く無視しています。なぜなら、神の御言葉の中には、神が全ての人にそれを明かしたと告げておられるからです。彼らは善を悪と言い、悪を善と言おうとします。そして彼らは、光をやみとし、やみを光としようとし（イザヤ 5:20 参照）。

イザヤ書 46 章 9～10 節で、神はこのように言っておられます。

9 遠い大昔の事を思い出せ。

わたしが神である。ほかにはいない。

わたしのような神はいない。

10 わたしは、終わりの事を初めから告げ、

まだなされていない事を昔から告げ、

『わたしのはかりごとは成就し、

わたしの望む事をすべて成し遂げる』と言う。

（イザヤ書 46:9～11）

神は、

「わたしは、皆に知っておいて欲しいんだ」

とおっしゃいます。

「わたしに属している者は、皆が選ばれた民なのだ」

と。皆が、王である祭司です（第一ペテロ 2:9 参照）。

皆さん全員が、初めから終わりの事を知る権利があります。

そして神は、

「わたしの計画・将来起こる事を皆に伝える為に、わたしは、ある特定の人たちを通して、それを全員に伝える」

と言われます。その選ばれた人たちは「預言者」と呼ばれます。

その預言者たちは、“預言学校”などを卒業したわけではありません。

彼らは、牧師や祭司から按手を受けて任命されたわけでもありません。

彼らは、厳密に、神によって選ばれた人たちです。

ですから、第二ペテロの手紙 1 章 20～21 節には

20 それには何よりも次のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私的解釈を施してはならない、ということです。

21 なぜなら、預言は決して人間の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神からのことばを語ったのだからです。

(第二ペテロ 1:20~21)

とあります。これは、誰の私的解釈でもありません。これは、聖霊に動かされた人たちが、神からの言葉を語ったのだからです。

イエスは、預言者たちに最大の敬意を示されました。

そして、この弟子たちに言われました。

「あなたは、悲しそうな顔をして、何を話しているのですか？」

すると弟子たちは、イエスに

「何も知らないのですか？近ごろエルサレムで起こった事を、あなたは知らないのですか？」

と言いました。するとイエスは

「どんな事ですか？」

と尋ねられました。彼らは

「ナザレ人イエスのことです。彼は預言者でした。そして私たちは、この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだと、望みをかけていました。それなのに、彼は捕らえられ、殺され、葬られて、今はもう3日になりますが、彼がどこにいるのかも分からない。墓が空っぽなのです。」

そこでイエスは、彼らを見て…

彼らは、イエスに対して、イエスのことを伝えているのです！

彼らには、それがイエスだとは分かりませんでした。

彼らの頭の中では、イエスが死んだことになっていて、

イエスがそこに立っておられるなんて、あり得ないことだったのです。

すると、イエスは言われました。

25 …「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。

(ルカ 24:25)

イエスは

「モーセが書いたことを信じない、心の鈍い人たち」とか

「ダビデの書いた詩篇を信じない人たち」

などと言うことも出来ました。

しかし主が言われたのは「預言者たちの言ったことを信じない、心の鈍い人たち」でした。彼らは、預言者たちを通して、イエスが死ななければならなかったこと、それから、イエスがよみがえらなければならなかったことを知ることが出来たからです。

その同じ神、太古の昔、父祖たちに預言者を通して語られた神が、今の終わりの時代、イエス・キリストを通して、私たちに語っておられます。これは、ヘブル人への手紙1章1~2節に書かれています。

1. 神は、むかし父祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られましたが、

2 この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。

(ヘブル1:1~2)

どの預言者も、同じくらいに重要です。

それぞれの預言者たちが、神の将来のご計画について、イスラエルの将来について、世界の将来に対して、それぞれの部分を託されています。

私の大好きな預言者の一人は、預言者イザヤです。

私は、預言者イザヤを通して、イエスに立ち帰ったのです。イザヤ書7章では、イエスが処女を通して生まれるということについて、そして、9章では、神の御子が与えられることについて、11章ではメシアのご性質、7つの御霊について告げられています。そして、53章では、イエスの非常に激しい死について告げられています。

私たちの罪のために死なれました。

ですから、イザヤ書は素晴らしいです。

しかし神は、他の預言者たちを通して、私たちにご計画を明かされました。そして、現代のこの時代に関連した、見事な預言がエゼキエルです。

今、私たちは、エゼキエルの時を生きている、と私は心底信じています。

私は、これを声を大にして語れます。それは、私はユダヤ人であり、ユダヤ人が故国に戻ってから生まれた第一世代だからです。そして、もうすでに私たちの首都である、エルサレムで生まれました。私はユダ族の者であり、私の祖父母はアウシュビッツを生き残りました。そして私は、彼らが戻る以前の、故国の地の歴史を知っています。

1800年代中ごろから後期にかけて、イスラエルの地は死んでいました。

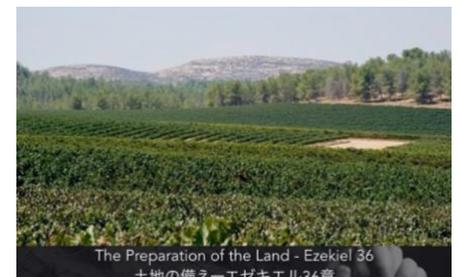
誰もそこを欲しがりませんでした。そこに飛んでいたのは、蚊だけでした。蚊がそこにいたのは、その地が放置されていたため、沼のような湿地だったからです。非常に興味深いのは、エゼキエル36章で、完全に死んだ土地について告げています。8節。



8 だが、おまえたち、イスラエルの山々よ。おまえたちは枝を出し、わたしの民イスラエルのために実を結ぶ。彼らが帰って来るのが近いからだ。

(エゼキエル 36:8)

神のご計画の中で、神の民を故国に戻すためには、まず、土地を回復させなければなりません。だれもこの土地を欲しがる人はいませんでした。アラブ人が元々そこに住んでいて、そこへユダヤ人が侵略した、というのは、全くの神話です。こんにち、自らをパレスチナ人と名乗っている人たちのほとんどは、元々はヨルダンやシリア、レバノン、エジプトから入って来たアラブ人で、ユダヤ人たちがこの地に戻り、繁栄し始めたのを見てやって来たのです。その理由を言いますと、「ユダヤ人たちがここに戻る」と、神がいのちを語られたのです。ハイ！わ～お！



The Preparation of the Land - Ezekiel 36
土地の備え—エゼキエル36章

ハイ！

タダチニ！（笑）

ご覧ください。あの死んだ土地、誰もそこで養うことの出来なかった地から、実に肥沃な土地となりました。そして、ユダヤ人たちはそこにたくさんの貿易、商売をもたらしたのです。1800年代、誰もそこがイスラエル国である、とは語っていませんでした。ただ、彼らがそこに戻ってきた、それだけです。そして、そこにいたユダヤ人たちは何と呼ばれていたか、ご存知ですか？

パレスチナ人！

ユダヤ人たちが、「パレスチナ人」と呼ばれていたのです。

その土地が、「パレスチナ」と呼ばれていたからです。

その名は、西暦135年に、ローマによって名づけられました。

ユダヤ人たちがローマに敵対したので、ローマ人がユダヤ人に屈辱を与えるため、彼らの敵である、ペリシテ人の名前を付けたのです。皇帝ハドリアヌスは、二つの事を行おうとしました。



① エルサレムを完全に崩壊させました。そこに「アエリア・カピトリーナ」という異国の町を建設しました。

② そして、国全体の名前をユダヤ、ガリラヤ、その他から、「パレスチナ」に変えたのです。

彼は、現在のシリアとイスラエルを一つにまとめて、一人の指導者の下、そこを「シリア・パレスチナ」と呼びました。

その時以来、誰もそれを戻そうとする者もおらず、その名前で満足していたのです。

Figure 2 ハドリアヌス胸像 しかし、その名前は、聖書の中にはありません。

聖書の中には、ペリシテ人とか、ペリシテの地というのがありますが、それはイスラエルの地ではなく、どこか本当に小さな一部分でした。

ということで、このように土地が回復し、美しくなった時、アラブ人たちが入って来始めます。しかし、ユダヤ人達も特にそれを気にはしていませんでした。労働力が必要だったからです。この時、ユダヤ人もアラブ人も「パレスチナ人」と呼ばれていました。その土地がパレスチナと呼ばれていたからです。しかし、神が土地を癒されたのは、アラブ人たちが戻るためではありません。神が言われたのは、「イスラエルの山々よ。おまえたちは枝を出し、わたしの民イスラエルのために実を結ぶ。」

それから、問題が起こります。

あまりに多くのユダヤ人たちが、他のところに住むことにすっかり満足していたのです。そこへ、とんでもなく恐ろしい独裁者が現れます。

彼は、ユダヤ人たちは人間でさえない、と信じていました。そして彼は、ユダヤ人を絶滅させようと決心します。そして彼は、組織的にユダヤ人たちを惨殺し始め、1941年から1945年の間に、600万人のユダヤ人たちがナチスによって惨殺されました。

ということで、預言者エゼキエルは、36章で土地の回復について語っています。

そして、37章でエゼキエルは、干からびた骨でいっぱい谷間を見せられます。そこで彼は、主に尋ねます。

「主よ。これは何ですか？本当に心が重たくなります。」

そして主は

「エゼキエル、この骨が見えるか？」と言われました。

11 …「人の子よ。これらの骨はイスラエルの全家である。ああ、彼らは、『私たちの骨は干からび、望みは消え失せ、私たちは断ち切られる』と言っている。

(エゼキエル 37:11)

彼らに希望はありませんでした。

彼らには、肉が一切ありませんでした。

彼らは、「神に忘れられた」と思っていました。

そこで私は、この条件を全て満たす人とは、いったい誰だろうか？と考えました。

そこで私の頭に浮かんだのは、ナチスの強制収容所から解放されたユダヤ人達です。

彼らは、このような姿をしていました。

本当に肉が全くなって、骨と皮だけです。

彼らの目には、一切希望が見られません。

彼らは、誰からも忘れられたと思っているのが見てとれます。

そこで神は、エゼキエルに言われました。



12 それゆえ、預言して彼らに言え。神である主はこう仰せられる。

わたしの民よ。見よ。わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓から引き上げて、イスラエルの地に連れて行く。

13 わたしの民よ。わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓から引き上げるとき、あなたがたは、わたしが主であることを知ろう。

14 わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入ると、あなたがたは生き返る。わたしは、あなたがたをあなたがたの地に住みつかせる。このとき、あなたがたは、主であるわたしがこれを語り、これを成し遂げたことを知ろう。
——主の御告げ——

(エゼキエル 37:12~14)

神はイスラエルに

「わたしはあなたがたのことを忘れてはいないよ。」

と仰いました。神は、

「あなたがたは、国としてもう一度繁栄する」

と仰いました。

「しかし、それをするためには、あなたがたを、あなたがたがいるべき場所に戻さなければならない。あなたがたが属する場所とは、イスラエルの地だから。そして、あなたがたは、そこで上手くやれる、とわたしが約束するから。」

神は

「わたしは、語り、これを行う神である。」

と言われます。

「わたしの言ったことばだけで判断するな。わたしは、その通りに行うのだ。」

と神は言われます。

私は近ごろ、世界中が難民を助けようとして、その難民たちが世界中で問題になっているのを見て、考えました。こんに

ちの難民の95%が、大虐殺から逃げているわけではありません。彼らはただ、より良い生活と、銀行にたくさんの貯金を持つことを求めているだけです。彼らの国が崩壊し、暴力に満ちているため、彼らはただ、より良い暮らしをしたいだけです。

それに対してイスラエルは、ヨーロッパを去りたくありませんでした。また当時、イスラエルはヨーロッパに住んでいて、自分たちの指導者や宗教によって惨殺されていたわけではありません。

こんにち、アフリカや中東から逃げているイスラム教徒たちは、イスラム教徒である指導者や政権に苦しめられて、そこから逃げようとしているのです。そして彼らは、歴史的に彼らが属する、いるべき場所に逃げているわけではありません。彼らの宗教的に権利のある場所ではありません。大部分において、ムスリムたちはクリスチャンの地に逃げて行っています。歴史的に、彼らはそこに属していません。しかし彼らは、より良い生活を求めて、リスクを冒し、そこに行っているのです。

ユダヤ人たちは、肥沃で豊かなヨーロッパを去りました。

そして彼らは、この船と、この飛行機で、敵に囲まれた土地へとやって来ました。彼らは、生活保護を受けなければ生きられませんでした。そして、第一日目から、地は、生き残りをかけて苦しみました。ですから彼らは、より良い生活を求めた難民ではありません。彼らは、良い生活を捨て、彼らが属する場所へ連れ戻されたのです。そして、とても興味深い事に、世は、彼らを助けませんでした。彼らが大虐殺された様子は、しっかりと記録されているにもかかわらず、世の中は誰一人として、それに対して抗議する人がいませんでした。彼らを見てください。定員の三倍の人数が乗っています。



アウシュビッツで生き残った私の祖父母も、この船に乗っていました。

私の祖母は、妊娠していました。

考えてみてください。

生まれ育った場所を離れ、全ての家族は殺されて、死の強制収容所で生き残り、ようやく自由になって、男性に出会って結婚し、妊娠しました。そしてこの旅に出ました。そして、自分の属する地が見えて来ます！

そこへ、イギリスの警察がその船を止め、方向転換させ、キプロスの島へ彼らを送りました。それは、アラブ人たちの怒らせたくなかったからです。

私の母は、キプロス島の収容所で生まれました。母の両親が、死の強制収容所で生き残った後です。しかし、その事に対して誰も何も言いません。

神は言われました。

「世があなたがたを助けず、世がそれを行わないなら、わたしがそれを行おう。」

世が行なうのは、ただ彼らを止め、邪魔をするだけです。

ですが、悲しまないでください。

私を見てください。私は、この、私たちの属する故国への帰還の旅路の実です。

私はイスラエルの首都、エルサレムで生まれました。

私は、エゼキエルの御言葉が、見事に成就されるのを、まさに目の前で見ています。

ですから、エゼキエル 36 章の地の備えは、成就されました。

エゼキエル 37 章の、ヨーロッパで生き残った人々の救済と、彼らの故国への帰還、



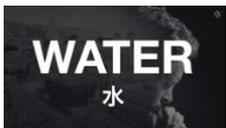
この両方が成就されました。



そして、2018年のこんにち、イスラエルはこの地球上で最も力のある国の第8位にランクインしました（書記注:US News and World Reportによる）。これは、世の力ではなく、ただ神の力によります。神が言われたことを、思い出してください。神は

「わたしは、あなたがたをここに連れ戻すだけでなく、わたしがあなたがたに息を吹き込もう。

そして、あなたがたは生き、繁栄する」と言われました。



水は、中東で最も重要なものの一つです。

イスラエルは、下水の浄化においては、世界でダントツの先進国です。

私たちの下水の90%近くが浄化され、農業用水として、再利用されています。

第二位の国は約40%です。



Figure 3 イスラエルの下水処理施設



Figure 4 大型の空気-水変換装置 (左) と家庭用空気-水変換装置 (右)

イスラエルは、空中から水を採取するシステムも開発しました。

皆さんがくしゃみをすれば、私はそれを飲むのです(笑)。



シゲン？資源。シゲン！

この数年間の間に、イスラエルは数兆立方フィートという量の天然ガスを、地中海沖に発見しました。

資源において、他国に頼っていた私たちの国は、一夜にして資源大国となりました。

それだけで足りなければ、私たちは、太陽熱も使っています。

私たちの国は、年間325日晴れているからです。



IN THE ISRAELI DESERT - THE WORLD'S HIGHEST SOLAR TOWER LOOKS TO THE FUTURE
イスラエルの砂漠の中で、世界最高の太陽塔が未来を見つめている。



それだけで足りなければ、食料は、



イスラエルの中で、全労働力の3.7%だけが農業従事者ですが、私たちの食料自給率は95%です。

イスラエルのモーは、地球上で最も生産量の高い牛です。

全てのモーが、コンピューター制御されています。

Figure 5 乳生産コントロールシステム

私たちは、オランダやドイツ、それから、アメリカの牛さえ追い越しました。
日本の牛肉は、間違いなく最高です。しかし私たちは、皆さんよりたくさん牛乳を搾乳しています。



イスラエルは、中東の軍隊の中でトップです。

そして、技術的にも、地球上で最先端の軍隊として知られています。



イスラエルは、サイバーセキュリティ大国となりました。

それで足りなければ、イスラエルはつい先日、世界先端国の第三位にランクインしました。そして、来年の2月、私たちは世界で史上4番目に、月に宇宙船を飛ばす国となりました。ロシア、アメリカ、中国に次いで、4番目です。

私たちは、地図の上では、ほんの小さな点に過ぎません。

だから私は、皆さん、悲しまないでください、と言ったのです。

しかし歴史を通して、イスラエルの成功は、神からの祝福に関係して来ました。

そしてその事で、私たちの敵は、常に怒って来ました。彼らは、自分たちの国の問題に対処し、自分たちの生活を良くする代わりに、常に私たちの生活を惨めなものにしようとして来ました。皆さんはご存知ないかも知れませんが、現在、ガザ地区では、彼らの生活を向上させるために、パレスチナ人に寄付として与えられた何億ドルという額の資金が、病院や学校、幼稚園とか、小さな診療所を建てるためには使われず、雇用の創生にも使われず、彼らはその資金を使って、テロトンネルやロケットを製造しています。

ですからイスラエルは、そのロケットへの対応策を考えました。

私たちには、新しいシステムがあって、ガザから飛んで来る全てのロケットの着弾する場所を、私たちのレーダーシステムが計算します。もしそれが、人の住む場所に落下するようなら、私たちは、我々のロケットを発射し、それを撃墜します。95%の命中率です。

ですから彼らは、今度は地下に潜って、トンネルを掘り始めました。

そしてイスラエルは、今度は新しくトンネルを探知するシステムを開発しました。



Figure 6 アイアンドーム

毎週、我々は、新たに一つのトンネルを破壊しています。彼らは二年かけてそれを造り、私たちはそれを二分で破壊します。飛行機から爆弾を二つ落とすだけで、全てのトンネルを破壊します。問題は、それがどこにあるかということだったので、それが分かりさえすれば、それで終わりです。

次に、今まで寝ていた人は、どうか目を覚ましてください(笑)

ここから、とても面白いことを見ていきますから。

今から皆さんに、ある事をお見せします。

今、世界で起こっている時事問題が、預言者エゼキエルの言葉にどれほど当てはまっているかを、これから見ていただきます。

イエスは、弟子たちがその時の時事問題を理解していなかったことを批判されたわけではありません。イエスは、預言者たちの言葉が成就したことを、彼らが信じなかったので、それをお叱りになられたのです。

彼らは、それは事故であり、間違いだと思っていたのです。イエスは、

「違う！それは、起こらなければならなかったのだ！」

と仰いました。

世界は、今起こっている多くの事が、偶然に起こったと思っています。

専門家とか、アナリストとかがテレビに出て来て、それを説明しようとしています。

でも私は、20年も前から、今、起こっていることを告げることが出来ました。聖書に書いてありますから！ちなみに、私はずっと以前からこれについて教えていますので、ユーチューブで皆さんもそれをご覧くださいませ。

でも私は、プロフィット（預言者）ではありません。

私はノン・プロフィット・オーガニゼーション（NPO 非営利団体）の人間です(笑)。

神は、将来を予測する人を探してはおられません。

神は、すでに将来の事を宣言されました。

神は「預言者たちが言ったことを信じなさい」と言われます。ですから、皆さん、自分たちの預言的な言葉を持ち出す必要はないのです。皆さんはただ、すでに与えられている預言に、人を導くだけで良いのです。

ですから、エゼキエル 36 章が成就し、37 章が成就し、今は 38 章の初めに差し掛かっています。その中で、預言者エゼキエルは、イスラエルがどれほど安全で繁栄しているかについて語っています。そして、エゼキエルが語っているのは、同盟を組んでイスラエルに攻め込んで来る国々についてで、またその国々が、イスラエルに攻め込んで来るのは、略奪し、物を分捕るのが目的です。

残念ながら、日本人の方々は、太平洋でかなり隔離されているので、メディアを信用し過ぎる傾向にあります。私たちから見れば、こっちは中国ロシア、韓国があり、こっちはハワイ、アメリカがあって、その間でどうすれば世界で起こっていることを知り得るのか、と思いがちです。

CNN!?

ただ、皆さんがご存知ないのは、CNN は誰かによって経営されているのです。そして、彼らの中にアジェンダ（策略）があるということを、彼ら自身が何度も認めているのです。彼らは、彼らが皆さんに信じ込ませたい事を、皆さんに信じ込ませようとしています。

ですから彼らは、オバマ前大統領を、世に対する神からの贈り物のように描きました。

そして、彼は閉ざされた中東にやって来て、その中東の将来に、民主とか自由の希望を差し出しました。そして、「アラブ

の春」で知られるものを、彼は急発進させたのです。アラブの春によって、中東では少なくとも100万人が死亡し、そのうちの70万人はシリア人でした。8年前、オバマが呼びかけ、中東のいくつかの政権がそれに追従した結果、シリア南部のダルアーという町で、シリア人たちが自分たちの全政権に対して、有名な反乱を始めました。初めは、一般人による純粋な反乱でした。そこで、アサドの兵士たちは、「これは自分たちの国を変えるチャンス」だと見て、自分たちの持ち場を離れて「自由シリア軍」となりました。しかし、だれも助けに来る人はいませんでした。そして、何が起こったかと言うと、イスラム過激派組織が、その反乱に便乗しました。アルカイダ、アル＝ヌスラ戦線。そしてその近隣に新しい集団が生まれ、それがISISです。

次に、これは誰かが何とかしなければならないように見えます。

そして、それと同時にイスラエルは、天然ガスと石油を発見しました。

これが、ロシアの顎にかけられた鉤となりました。

当時、原油価格は1バレル＝\$40近くにまで暴落していて、ロシアは何十億ドルというお金を失いました。そこで彼らは、中東を見て、

「あんなにも石油がある！それに物凄い混乱が起こっている！」

と思いました。中東の石油が鉤となり、彼らは「シリアの人たちを助けるため」に、シリアにやって来る決心をします。

イランは、彼らを見て

「うわ！シリアで大混乱が起こっている！」

と言いました。

「じゃあ、それなら我々も行こう！イスラエルに近づければ、イスラエルを簡単に滅ぼすことができる！」

トルコはその両方を見て、

「なんと！皆があそこで楽しんでいるのに、我々は取り残された！我々も行って、自分たちの国境を守らねば！」

と言いました。

アメリカも言いました。

「何だ!?一体ここで何が起きているんだ？」

そしてどうなったかというと、

イランが来ました。

ロシアが来ました。

トルコが来ました。

それから、アフリカの二つの国、スーダンとリビアは、また、彼ら自身の問題を抱えていました。そして、スーダンがトルコを招待し、リビアがロシアを招待して、ここに、エゼキエル38章で描写された、全ての国の同盟がイスラエルに入り、侵略する準備が出来ました。

ロシア、イラン、トルコ、スーダン、リビア。



では、サウジアラビアはどうでしょうか？

サウジアラビアの最大の敵は、イランです。そして、イランの最大の敵はイスラエルです。



そこでサウジは、こんな風に言いました。

「わたしの敵の敵は、私の友だ。」

そこで突然、サウジアラビアは親イスラエル派に変わりました。

サウジアラビアの皇太子は、イスラエルの国会へ行行って、演説をしたいと考えています。

Figure 7 サウジのムハンマド・ビン・サルマン・アル=サウード皇太子



ところで、ヨーロッパは、彼らは今、寝ています。

皆が国を盗んでいて、…皆さん、ワールドカップ（サッカー）はご覧になりましたか？フランスは、ご覧になりましたか？皆さんは、お祝いを期待されたと思いますが、現在、フランスで何が起きているかご存知ですか？

車を燃やし、お店を強奪して、人々が殺されて、紛争地帯になっています。彼らが、ワールドカップで優勝したからです！これが、眠ってしまった国です。



Figure 8 ワールドカップ後のパリ（左）とリヨン（右）。放火や投石されている。

今、突如ヨーロッパの人々が目ざめ始めましたが、もう、ほぼ手遅れです。



そして、アメリカには新しい保安官が町にいます。

その彼が、世界中の狂った人々に言っています。

「私は、あなた方よりも狂っている！だから、私に手を出すな！私は意気地なしではない！

あなたがたはあまりにも長い間、私の国を虐待し、私たちを利用してきた。」

そして彼は、イスラエルにやって来て、

「大統領、嘆きの壁には行ってはいけません。」

と言われると？

「なぜだ？」

と聞きました。

「それは、ポリティカルコレクトに反するからです。」

と言われると、

「何だ？そうか、分かった！じゃあ、嘆きの壁に行こう！」

それから彼が、

「我々の大使館は、エルサレムのどこにあるんだ？」

と聞くと、

「私たちの大使館は、エルサレムではなく、テルアビブにあります。」

と彼らが答えました。

「何でだ？」

「それは、ポリティカルコレクトに反するからです。」

「何だと!?!大使館をエルサレムに移しなさい！」



Figure 9

キッパを被り、嘆きの壁に手を置くトランプ大統領



「建物を建てるのに、8年かかります。」

と彼らが言うと、

「何!?何だと?」

「計画を立てたり、設計したりしなければなりませんから。」

「エルサレムに、私たちのビルは一つもないのか!?!」

「あ〜、一つならあります…」

「そうか!じゃあ、来月、そこに引っ越しをしよう!」

「あ〜、でも今は、良くありません。アラブ人たちがそれを気に入らないでしょうから…」

大統領は電話を取って、

「サウジアラビア!私たちがエルサレムに大使館を移動させることに何か問題があるか?」

「い、いいえ、大統領!」

「そうか!良かった!」

「では、直ちに大使館を移転なさい!」

今は、ロケットマン（金正恩）が言っています。

「ふん…こいつは、ただ言うだけの男じゃない。こいつは真剣だ。」

そして今、状況は、イスラエルが強くて、安全で安心している状態です。

そして、ロシア、イランの経済はガタガタです。

あの狂った大統領が、イラン協議から撤退しましたから。

トルコのリラも暴落しています。

イスラエルは上昇しつつあり、彼らは下降していき、何かが起こらなければなりません。

「シリアが、私たちの解決策だ!」

「我々は、シリアを助けに行くと言おう。」

「そして、時が来れば、我々は前進する。」

これらの国々にとって、史上最高の出来事は、シリアでの戦争でした。

ただ、彼らは一つの事を忘れていました。

もう一人、預言者がいて、その人は次のように言っています。

1 ダマスコに対する宣告。

見よ。ダマスコは取り去られて町でなくなり、
廃墟となる。

(イザヤ 17:1)

「その時が来れば、ダマスコはなくなる。」

その日が近づいています。

ダマスカスは、まだ立っていますから、この預言はまだ成就されていません。



詩篇 83 篇は、イスラエルの独立戦争の時に攻めて来た国々が、ここに列挙されています。しかし今は、私たちはヨルダンともエジプトとも和平があります。ですから、詩篇 83 篇は、もはや将来の事ではなく、すでに過去の話です。

イザヤ書 17 章は、すぐにも起こるはずですが。というのも、私は毎週アップデートをしています、それをご覧になっていたければ、これがどんどん近づいていることがお分かりいただけるかと思えます。

エゼキエル書 38～39 章の戦争が、次の中東での戦争です。その頃には、ヨーロッパ人たちはすっかり抑圧されて混乱し、助けを求めている、どんな人でも受け入れてしまいます。そして私は、反キリストがあつた地域から出るとしていますが、その反キリストが、彼らに平和をもたらします。また、その反キリストは、ユダヤ人たちにエルサレムに留まることを許すだけでなく、神殿の丘に、神殿を建てることを許可します。

なぜなら、ダニエル書 9 章と第二テサロニケ 2 章によれば、反キリストがその神殿に入り、自分が神であると宣言する、とありますから。

その悪の人による、7 年間の支配の後、その最後にゼカリヤ書 12, 13, 14 章に書かれている、ハルマゲドンと呼ばれる大きな戦争があります。これは、黙示録 16 章が告げている戦争で、イスラエルが荒野に逃げる、と書かれています。



ダマスカスはまだ、立っていますから…。大阪の方が、これよりもっと美しいですよ？

ダマスカスはまだ立っていますが、将来滅ぼされます。

そして、まさにルカの福音書 21 章 28 節、31 節で、イエスが言われた通り、

戦争のこととか、戦争のうわさとか、疫病とか飢饉が起こると言われた後に、

「これらのことが、起こり “始めた” なら、…」

と言われました。

21 これらのことが起こり始めたなら、
からだをまっすぐにし、頭を上へ上げなさい。
贖いが近づいたのです。

(ルカ 21:28)

31 そのように、これらのことが起こるのを見たら、神の国は近いと知りなさい。

(ルカ 21:31)

言い換えれば、皆さんの贖いは、この世の誰からも、どこからも訪れません。
上を見てください。

では、贖いとは何でしょう？

「私はもうすでに贖われていると思っていたけれども、まだ、贖われてはいないのか？」

「私の贖いが近づいている」とは、どういう事でしょう？

ローマ書 8章 23節には、その贖いについて説明されています。

23 そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。

(ローマ 8:23)



言い換えれば、これらのことが起こり始めたなら、用意をしなさい。

あなたの体がこの悪の世から贖われる、取り去られる時が近づいている、ということです。

それが、携挙です。

これらのことが起こり始めたら、私たちはここを去るのです。

それから、これらのことが既に起こったなら、神の御国、つまり千年王国が近いことが分かります。まず、私たちがここから取り去られ、そして

世が裁かれます。そして私たちが戻って来て、イエスと共に、千年の間ここを統治します。

ここにいる私たちはキリストの花嫁ですが、私たちがここを去ることを楽しみにしている人は、本当にごく僅かです。

クリスチャンの 90~95%が、携挙さえ信じていません。

ピリピ人への手紙 3章には、私たちの国籍はここではなく、私たちの国籍は天にある、と書かれているのに、彼らはそれを理解していません。

イエスは、

3 わたしが行って、…また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。

(ヨハネ 14:3)

と仰いました。イエスは

「あなたがたのいる所に、わたしも行く」

と言われたわけではありません。

私たちが、住所を変えるのです。私たちがそこに行くのでなければ、どうしてイエスは、私たちのために豪邸を備えられるのでしょうか？

皆、イエスを見たいと思っています。

書くものを用意してください。そして、次のことを書いてください。

イエスが戻って来るのを見た時に、あなたの足がまだ地についているなら、あなたは大変なことになります。
もし、イエスが戻って来られるのを見て、あなたが空中にいるなら、あなたは物凄く祝福されます。

もう一つ、書いてください。

イエスの、この地上への再臨の時に、皆さんはイエスの顔ではなく、背中を見るようにしてください。

つまり、背中を見ているということは、イエスがこの地上に戻って来られた時、あなたも後ろで共に馬に乗っていることを意味します。

イエスは、最初、罪のために来られました。裁くためではなく、世を救うためでした。

しかし二度目、再臨の時には、戦争の人として、裁くために来られます。そして、主の御口の息をもって、敵を滅ぼされます。

落ち込まないでください。

今は、終わりの日々、終わりの時です。

備えをしてください。

あと4分ありますから、皆さんに、これだけはお伝えしておきます。

(会場の人に向かって) あなた、ご主人はいらっしゃいますか？

では、結婚式の時の事を覚えていらっしゃいますね？

ご結婚された日、結婚式の5分前に目覚められましたか？それとも、早く起きて準備をされましたか？

「もちろんです！」

歯も磨いて？髪の毛を整えて？

パジャマを着て、結婚式には行かれませんでしたよね？

綺麗なドレスを着られましたね？

私たちの花婿も、もう来ようとされています。

そして私たちに「眠るな」とおっしゃっています。

ローマ書13章11～14節をお読みします。

11 あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているからで

す。

12 夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。

13 遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。

14 主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。

(ローマ 13:11~14)

ハレルヤ！

もし、準備が出来ていないのなら、どうか備えをしてください。もう、時間がありません。

ここを出た瞬間に、取り去られるかも知れません。

タダチニ！

もし今夜、あなたに準備が出来ていないのなら、——だから神様は、あなたをここに連れて来られたのかも知れません。

皆さんの人生の中で、何か、自分は携挙されるだろうか？と思わせるものがあるのなら、もしあなたが、正しい生き方をしておられないのなら、主とともに歩んでおられないのなら、今日が、あなたの救いの日です。

では、目を閉じてください。

お祈りしましょう。

天のお父様、イエスの御名によって祈ります。

今夜、私たちは、あなたの御言葉を聞きました。

私たちは、あなたのご計画を理解しました。

そしてあなたは、私たちがいのちを選ぶことを願っておられると知りました。

最終的には、私たちの選択です。あなたは、私たちの心の扉を叩かれますが、私たちがそれを開けた時にだけ、あなたは中に入られます。

今夜、私たちの扉をたたく音は、とても大きくなりました。

私たちは、エゼキエルの時を生きています。

イエスの時代以来の、あなたの大きな動きのただ中に今、私たちはいます。

今夜もし、この中に、まだ準備が出来ていない方がいらっしゃるなら、

どうかあなたがその人に語りかけてください。

その人の心をつかみ、核心まで、あなたが揺り動かしてください。

その人が決心しますように。いのちを選びますように。

あなたは誰一人として、滅びることを望んでおられません。

あなたは忍耐しておられます。

しかし、ある時点で、異邦人の時は終わります。

あなたに感謝します。どうか今夜が、救いの日となりますように。

今夜、日本の大阪から、あなたの御名を祝福します。

今夜、あなたに祈ります。この終わりの時、私たちが城壁の見張り人としてください。

あなたのご計画に関して、人々に慰めの言葉を与えることが出来ますように。

もしその人が、あなたと共に歩んでいるのなら、それが慰めとなりますように。

そして、あなたと共に歩んでいない人にとっては、それが警告の言葉となりますように。

どうかご起立ください。

皆さんの上に、アロンの祝福を宣言したいと思います。

ヘブル語でお祈りします。

	ヴェイシエメレハー		アドナイ		イエヴァーレフハー	
	וְיִשְׁמְרֶהָ		יְהוָה		יְבָרֵךְ	
	..(主が)あなたを守られますように		主が		あなたを祝福し	
	24					主があなたが祝福し、あなたを守られますように。
	25					主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。
ヴィーフネッカー	エーレーハー	パーナーヴ	アドナイ	ヤーエール		
וַיְהַנֵּךְ	אֵלֶיךָ	פְּנֵי	יְהוָה	יָאֵר		
..(主が)あなたを恵まれますように	あなたに(向けて)	御顔を	主が	照らし		
	26					主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。
シャーローム	レハー	ヴェヤーセーム	エーレーハー	パーナーヴ	アドナイ	イッサー
שְׁלוֹם	לָךְ	וַיִּשֶׂם	אֵלֶיךָ	פְּנֵי	יְהוָה	יִשָּׂא
平安を	あなたに	(主が)賜るよう	あなたに(向けて)	御顔を	主が	上げて
						(民数記 6:24~26)
						主イエスの御名によってお祈ります。
						アーメン。
						ありがとうございます。

(引用：牧師の書斎 <http://meigata-bokushin.secret.jp/>)

※ 連続して発音する場合は以下

イエヴァーレフハー アドナイ ヴェイシエメレハー

ヤーエール アドナイ パーナーヴ エーレーハー ヴィーフネッカー

イッサー アドナイ パーナーヴ エーレーハー ヴェヤーセーム レハー シャーローム

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

【写真出典一覧】

ロベルト・ズンド画「エマオの途上」: 1877年制作 スイス ザンクトガレン美術館蔵

ハドリアヌス胸像: Wikipedia 「ハドリアヌス」

イスラエルの下水処理施設: igdan.org のウェブサイトより

大型の空気-水変換装置と、家庭用空気-水変換装置: Water Gen.com のウェブサイトより

乳生産コントロールシステム: SCR Milking Control System

アイアンドーム: Wikipedia 「アイアンドーム」

サウジのムハンマド・ビン・サルマン・アル=サウード皇太子: Facebook より

ワールドカップ後のパリとりヨン。放火や投石されている: You Tube Seeing It Clearer “Riots in France after 2018 World Cup Win vs Croatia!- (Compilation)” 2018/7/15

無断転載禁止